

# 小池辰雄記念図書室だより

2015. 10. 17(土) NO.27

千葉県若葉区都賀 3-24-8-4F 小池辰雄記念図書室発行

## 1. 各地の読書会

「読書会に参加して」

清水 樹郎 (都賀)

私と家内は9月19日に都賀の読書会に参加させていただきました。この機会を戴いたことにまず水谷先生始め、皆様に感謝したいと思います。ありがとうございました。

家内はクリスチャンですが、私はそうではありません。私自身、世の中が全て人間の科学で説明できると考える無神論者ではなく、人知を超えた「サムシンググレート」を想定しなければ世の中は認識できないと理解している一方で、一神教よりは日本的な多神教、もしくは自然崇拝的なアプローチに心寄せられております。この意味でキリスト教を否定するものではないですが、これまで何度か家内の教会で色々な牧師先生の話やキリスト教の話の話を聞く機会がありましたが、正直申し上げて良い話が多いのですが、肚落ちする感覚がありませんでした。

今回は、息子のことで悩んでいることもあるのかもしれませんがとても心に響きました。水谷先生は、今回、教育を語られる上で、「頭で理解した理屈をそのまま伝えるのではなく、自らの体験と言葉で語るべし」、「宗教観なくして真の教育は成り立たないが、真の教育を実行することは、宗教世界だけではなく、家庭生活においても、更には実業界においても全く同じこと」「その両立は本人次第」とおっしゃりました。しかも自ら実践され、その実行に関わる信頼の人の輪がどんどん広がっておられるのを目にし、実業界に生きる者として大変感動いたしました。

息子のことで本当に悩んでおりますし、自分が仕事にかまけて迷惑をかけたと悔いております。家内や息子、家族への関わり方、家庭と仕事、多くの深い示唆をいただきました。本当にありがとうございました。家族共々今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 2. 図書室の小さな利用者

この日、9月10日は図書室には珍しい小さなお客様がご利用下さいました。2Fでお母さんたち

がバザーをしているので宿題をしに図書室に来てくれたのでした。室長も久しぶりに小学生の宿題を一緒になってやるととても楽しい時間でした。



## 小池辰雄を読む会

### ●余市

2015年10月4日(日) 13:30~15:00

余市郡余市町豊丘町 370-9 惠泉祈りの家

\*会費:無料(自由献金)

\*連絡先:0135-23-9222(木下)

### ●札幌

2015年11月28日(土) 14:00~16:00

(札幌市南区川沿10条 3-10-5 札幌祈りの家)

\*会費:無料(自由献金)

\*連絡先:011-571-2348(三ツ木)

### ●関西

2015年10月25日(日) 14:00~15:30

神戸市中央区磯上通り 4-1-12 神戸バィブルハウス

\*自由献金 \*連絡先:090-4645-7389(後地)

### ●都賀

2015年10月17日(土) 10:00~12:00

2015年11月21日(土) 10:00~12:00

千葉県若葉区都賀 3-24-8 都賀プラザ 5階

\*会費:1000円

\*連絡先:043-235-3815(石丸)

\*準備のため、出席のご連絡をお願いします。

\*予習不要・初心者歓迎

**図書室だよりは偶数月発行です。**

本図書室は献金で運営されています。

## 異言をめぐって

前回の「清瀬事件」当時私は中学一年生だったが、新聞種になったために家の中の空気がいつの間にか変わっていったことを憶えている。昭和二五年末から続いた過激な集会と祈祷会が次第に陰をひそめ、集会のメンバーも一人去り二人去りといつのまにか入れ替わっていった。それまで多かった大学生に代わって、この時期から結核療養所関係の人が主流になっていったと思う。

「右の者に対する重過失致死被告事件に付証人として尋問するから昭和二十八年十一月三十日午後一時、当庁刑事法廷に出頭されたい」

これは、事件から一年後小池辰雄に送られてきた証人召喚状の一文であるが、茶色くなったわら半紙に印刷された東京地方裁判所八王子支部の文言を読むと、辰雄が世俗の冷徹な現実と直面したときのたじろぎを感じる。すでに朋友だった関根正雄も去って、無教会の中で全くの孤立者になっただけでなく、家庭の中でも孤独だったのだらうと思う。

東京山の手のクリスチャン家庭ではとても考えられない出来事が数年続いたのだから、妻の順子が、「私の心配したとおりに」と言ったとしても不思議はないし、子どもの中でもミッションスクール教育を受けた私の姉たちは母親の味方であった。したがってこの事件はむしろ神さまからの忠告と受け止めたと思う。

このようにまったく孤立した辰雄を支えたのは誰か。

そういえば、この年の夏、私たち姉弟四人はそろって小諸の川口愛子さんを訪ねている。川口さんは、小諸の地でキリストの愛を、身を以って伝えた今や伝説的な美しい女性であるが、私たち子どもが気軽に遊びに行くような関係にあったとは思えない。にもかかわらず、肌寒い八月の終わりのころ、なぜか夏休みの残り少ない時期に姉弟そろって小諸に行ったのである。その理由を、暗記したばかりの島崎藤村の「千曲川旅情の歌」の現場を見たかったとか、上田に住んでいた従兄弟を尋ねるためとか考えてみたが、そうではない。子どもにとって特別面白いところではなかった川口さんの「ひまわりの家」を訪ねたのは、父・辰雄の強い思いからだったと今思い至る。

五十歳近い男が、子どもたちを信頼する女性の元へ送る――それがあの肌寒い夏の出来事だったのだと思いながら、川口愛子さんの遺稿集『落穂』を読んだ。すると、そこに事件より二年前に書かれた「聖霊のみわざを拝して」という塚本虎二先生に当てた昭和二五年十二月八日に始まり翌昭和二六年十二月までの一連の感動的な書簡が掲載されてあった。

それは事件の二年前、重度のカリエスを患っていた川口さんが、小諸のクリスマス特別講演会の終わりの日

に、深夜の十二時から二時間、小池辰雄から聖書を読みつつ祈りを受けたときに起こる。

「もうこれでいい『先生もお疲れでいらっしやいませ、もうお休み下さいませ』と、申し上げんと致しました瞬間、全くの予備知識なしに、この体にけいれんが始まり、やがて激しい呼吸作用(物凄い勢いで体の内部より、悪しきものを吐き出す如き呼吸)が体中をもみくちやにしつつ起こり、時々呼吸の休みをしつつ、またつづき約二時間を経て朝の四時までつづきました。」

翌日、小池が帰郷した後川口さんが祈ると前夜と同じ現象が起き、傍らにいた川口さんのお母さんも驚いたという。そしてその二日後の昼過ぎに祈り、夕食後にも祈り、翌朝にも祈ると、「昨夜とは異なる運動が上半身に起こり」、翌十二月二三日朝、「身にも心にも何か萌えいづるような新しい能力を覚え、到底訪れることができまいと思っていた菱野の療養所へ病友たちと語り合いに出かけることができ、次のクリスマスイブの夜、第一療養所のクリスマスに出席して帰ってきた真夜中、

「ふと呼びさまされる如くして目覚めました。見えざる電波が自分の周囲をかこむような畏れを感じたと同時に体がふるえだしました。でも両手をしかと握り合わせて今朝別れてきた病友たちのことを祈りだしました。そのうちまた激しい上半身の運動が始まり腸がもみだされるかの如き震動の極みに達しまして、瞬間、腸の中から吹きあがる勢いでラッパと申しましょか、なんと形容もできない異言が吹き出されました。その時、階下で十二時を報す時計がきこえました。思わず、『ハレルヤ』と畏れに満ちて叫びましたら、次の瞬間ハレルヤコーラスが異言となりて私の舌から歌い出されるのでございます。」

この塚本先生宛の手紙は、五六円切手が貼られていたというから、手紙一通八円の時代、一〇〇グラムを越す大部なものだった。これを受け取った塚本先生は、

「……五十何円貼った君の書留が着いた時、何事かとびっくりした。そしてそれが神癒問題とわかった時、こんなことにと二度びっくりした。」

という書き出しの文章を『聖書知識』の昭和二六年二月号の冒頭に掲載した。(この項つづく)



1954年 川口愛子と小池